

平成29年度 学校関係者評価書

学校名	和歌山市立野崎西小学校
作成日	平成30年3月9日

1 教育目標

自ら学ぶ意欲と強い信念を持ち、社会の変化に主体的に対応してたくましく生きる心豊かな児童の育成に努める。

2 学校の自己評価についてのご意見

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民と作品展を通して交流を図る公民館活動は続けてほしい。 6年生を送る集会に見守り隊の方々を招待し、教育・文化活動の情報センターという役割を果たしているのは意義があると思う。 本年度より図書室を運営するボランティアを募集し、地域の人材を積極的に活用できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じて、教科に関する環境問題や野菜づくり等に取り組み、豊かな心の育成に努めている。 出前授業として、体験的な活動を多く取り入れていることは、ゆたかな心を育てる上で重要なことであると思う。 若い先生方の多い中、全職員で全児童を育てる意識を持つことは大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が一丸となり、学力テストの分析をし、それをもとに取組んでいる。本年度は基礎基本に、取り組みの成果がみられた。 今後とも放課後や夏休みの補充学習を積極的に行い、家庭での自主学習を定着させ、和歌山県の課題を認識してさらなる取組が望まれる。
取組の状況に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> 「開かれた学校」に向けて、さらに学校と地域の連携を強めてほしい。 6年生が感謝の気持ちを込めて、全校児童の前で見守り隊の方々にプレゼントを手渡す企画はよいことである。 「いじめ」特別号の発行も意義がある。 学生ボランティアを要請し、学力向上や体力向上、特別支援活動に活用できおり、このような取り組みを継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教育活動を通して、一人一人を大切に声掛けを行い、豊かな心を育成するように努められている。 出前授業をたくさん行い、豊かな心を育てられるような取り組みがなされている。 「いじめは必ずあるもの」と考えて取組んでいることは必要なことである。 児童会が中心となって、朝のあいさつ運動の取り組みをこれからも続けてほしい。 芝生の管理は、奉仕作業を利用して、地域の方の応援も求めてみてはどうか。 いじめや問題行動に対して、学校全体で取り組んでいる。取組も「学校だより特別号」で発信しているのはよい。早期発見早期解決に心がけてほしい。 施設面は古いが、校内は清掃が行き届いている。 今の児童はたくましさ欠缺るので、教育目標を達成させるよう取組を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い先生方が休憩時間に子供たちと一緒に活動している姿はとても素晴らしいと感じた。外に出て遊ぶ子どもたちが多いことにも感心させられた。 昨年度評価問題を徹底して行ったことにより、国語Aで全国平均を上回ったことは評価できる。 成果を保護者に伝え、より一層家庭学習が定着するよう協力を求めていく必要がある。 各授業において、黒板に「めあて・考え・まとめ」など、どの教室も指導方法が統一されていてわかりやすい。 一人一人を大切にしながら、前向きに授業に取り組んでいるが、さらに指導法等多くのことを学び、教師としての力量を高めてほしい。 ほとんどの子どもたちは授業に対して、意欲的に取り組んでいる。今後、自分の意見をきちんと説明できる児童を育成してほしい。
検証結果に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> 保育所との交流は、1年生にとって、意義がある。 恒例の公園の清掃を、地域の自治会と共にやっているのはよいことである。 津波を想定した和歌山大学への避難訓練は、地域や保護者、関係機関の協力を得て、大変意義がある。年々地域の方の参加も増え、訓練の回数を増すごとに、より充実してきている。毎年実施し、日々の防災意識を高めていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちに豊かな心が育まれるよう、家庭や地域の教育力にも積極的に働きかけていく必要性を感じる。 自己肯定感が持てる子どもの育成に向け、教職員・保護者・地域が連携を図り、一丸となってより良い学校づくりを進めていただきたい。 先生と児童の距離が近く信頼関係が築かれている。教育活動全てにおいて、このことを大切にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力テストの分析をもとに、課題を解決する方策を具体的に、基礎学力定着に向けて取り組んでいってほしい。 教材研究や研究授業を通して、教職員一人一人の資質向上に取り組んでほしい。 基礎基本を徹底し、全国学テ、県学テにおいて平均以上をめざし、計画的に学力向上を図ってほしい。
改善方法に向けての意見	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動を積極的に行い、様々な学校行事に地域の方々もどんどん参加いただけるよう情報提供や連携を深めてもらいたい。 子供たちの安全を守るため、地域との連携を更に深めてほしい。 学校の老朽化が気になるので、地域として応援できることはしていきたい。洋式トイレの増設や体育館・給食室・遊具等の補修を徹底してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちに豊かな心が育まれるよう、家庭や地域の教育力にも積極的に働きかけていく必要性を感じる。 自己肯定感が持てる子どもの育成に向け、教職員・保護者・地域が連携を図り、一丸となってより良い学校づくりを進めていただきたい。 先生と児童の距離が近く信頼関係が築かれている。教育活動全てにおいて、このことを大切にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力テストの分析をもとに、課題を解決する方策を具体的に、基礎学力定着に向けて取り組んでいってほしい。 教材研究や研究授業を通して、教職員一人一人の資質向上に取り組んでほしい。 基礎基本を徹底し、全国学テ、県学テにおいて平均以上をめざし、計画的に学力向上を図ってほしい。

3 其他のご意見

<ul style="list-style-type: none"> 公園や地域で外で遊ぶ子どもたちの姿を見かけなくなったが、放課後運動場を開放することで、子どもたちがよく遊びに来るようになったという話を聞いてほっとしている。芝生の育成にも力を入れて、生き活きと活動できる環境をより整えてもらいたい。 学習参観授業では、1人でも多くの保護者が教室に入って参観ができるよう、保護者の意識改革も必要である。 若い先生が多く、子どもたちとの距離が近いことはよいことである。教職員一人一人の資質向上に向け研修を続けていってほしい。 地域や保護者、関係機関と連携した大津波を想定した和歌山大学への避難訓練は、将来予想される南海トラフ大地震への対応として重要なものとなるので、ぜひ今後も続けてほしい。地域としてもできる限りの協力はしたい。 いじめはどこの学校にでもあるとの意識を持ち、早期発見・早期解決に向けた取組を進めてほしい。子どもたちの規範意識がぐずれ、問題行動が起こる前に、一人一人を見つめ理解し、個に応じたきめ細かい指導を続けてもらいたい。
--